

04・えつちな事ばつか考えてるのがバレて、優しくいじめられて言葉攻め耳舐めされる

『03・夜中、民宿の部屋にふたりきり』からそのまま続き。

とある年夏。七月二十七日（月）二十一時半ごろ。

日本のとある、かなり寒い地域の田舎町。

天気は晴れ。気温は二十四度程度。

涼しく、心地よい夏の夜。

場所は、民宿内、現在主人公が自室として使っている部屋。
主人公と弥映は今、隣り合って座り、その距離はとても近い。

● 中央
至近距離

「ふふ」

〈主人公〉

「……あの」

主人公、弥映の言葉が信じられず、至近距離でぽかんと彼女を見つめる。

……まさか、日常会話で『セツクス』という単語を聞くなんて。
しかも、それを『しよう』と言われるなんて。

主人公は学校ではお堅い真面目女子で通っていて、周りからは、性の話題を嫌悪していると思われている。『エロい話NG』なのだ。

だから性的な単語を、知っている誰かの口から聞く事などなかつた。
あつたとして、その話題に、自分は参加していなかつたのである。

だがきっと、弥映はそうではないのだろう。

気軽に『しよう』と言えるような生き方をしているのだろう。

それだと思うと、主人公はすごく悔しいような、苦しいような気持ちに襲われる。
だが弥映は、次の言葉で、あつさりとその予想を覆した。

●中央　至近距離

「しつれつと補足する。遊んでいる女だとは思われたくないが、
その誤解は当然の事のような気もしている」

ああ。別に誰でも誘う訳じやないよ？

【少し間をあけてから。ごく当たり前のよう^にに言う】

でも、あんたいい子だし。顔も声も好きだなって思うし。

【※マークまでしつれつと。

『明日も会おうよ』と言うような、ごく普通の事に誘つてているような感じで】
興味あるんでしょ？

【少し間をあけてから】

だからしょ？』 ※

主人公、弥映の言葉を、果たしてどの程度信じたらいいのかわからず、迷う。

ただ、今わかったのは、弥映が『誰でもセックスに誘う女』だつたら。

少なくとも、自分でそれを認めていたら……主人公はすごく嫌だし、傷つくという事だ。

それは自分が『誰でもいい』の中に含まれるのが嫌だからだ。
つまり、主人公は——……弥映に特別だと思われたいのだ。

『特別に思つてくれるなら』と思い始めているのだ。

だつたら……。

〈主人公〉

「して、みたくない」

主人公、うつむいたまま、震える声で切り出す。

●中央 至近距離

「すごく優しい声で。主人公の言わんとすることがよくわからないので、続きを促す」

弥映はそんな主人公の顔を、優しく覗き込み、続きを促す。

〈主人公〉

「と言つたら、嘘だと思います」

●中央 至近距離

「甘つたるい猫撫で声で。主人公を強引に自分のペースに乗せようとしている」

うん。いいよ」

弥映はこれを、OKの言葉だと理解しかける。

●左 ささやき ※マークのセリフまでささやく
「【ダメ押しのように甘つたるくささやく】

えつちしょ」※

〈主人公〉

「……でも、それってどういう関係ですか？」

でも、そうではない。

主人公には、どうしても確認しておきたい事があった。
仮に『それ』をしたとして、その時自分達は、なんと呼ばれる関係になるのか。
それだけは、はつきりさせておきたかったのだ。

弥映、主人公が奇妙な事を言うので、正面に向き直る。

● 中央 至近距離

「少し驚いて。まさかそういった事を聞かれるとは思っていなかつた
え……？」

【それでも、驚いていなさそうな聲音に戻す】
不思議な事聞くね。

【思案して。『てーと』は『つて言うと』を略した形。

『つて言うと』に近いが、少し違つて聞こえるように言う】

【これはどういう関係かつてーと……。

【少し間をあけてから。答えを見つける】

『行（ゆ）きずり』みたいな？』

（主人公）

「それって、ワンナイトって事ですよね」

主人公、今度は顔を上げて、弥映を見ながら尋ねる。
これまた性的な言葉だ。

できるだけ柔らかく聞こえる表現を使つたつもりだが、それでも生まれて初めて使つた。
発音するだけで、声が震える。

●中央 至近距離

「しれっと。『その通りだよ』という感じで
うん。ワンナイトつて事。

『よくない?』は『別にそれでいいと思わない?』という意味
よくない?」

だけど、弥映にとつては、普通に言える言葉であるらしい。

さらに言えば、普通にできる事なのかもしれない。

でも、主人公にとつては、普通に言える言葉なんかじやないし、普通にできる事でもない。
だから……。

〈主人公〉

「……それは、嫌です」

●中央 至近距離

「声が笑っている。『そんな事言つて、本当はしたいんでしょ?』という感じで。

内心、断られたのかと思いショックを受けているが、まだ引き下がれない
えー?」

〈主人公〉

「私は……」

私は。付き合ってる人としか……その。……セツ、クス。しません。
どんなに興味があつたつて、しません。
……でも

だから言つた。『それなら、応じられない』と。
だけど、もし『そうじやない関係』なら……。

SE1　主人公が弥映の手を握る音

【最初から最後まで流す】

主人公、弥映の手を握る。

それから、もう一度顔を上げる。

〈主人公〉

「……意味、わかります？」

●中央　至近距離

「【驚いている。『意味』つまり、主人公の言いたい事はわかるが、それが信じられない】
えつ、と。

【なので、確認しようとする】

つまり、あたしがあんたの恋人になるなら、セックスしてもいいって事？

【声が少し揺れる。内心、心が大きく揺れている】

あんた、あたしを彼女にしてくれるの？』

〈主人公〉

「……」

主人公、黙つてうなづく。

これが主人公の出した結論だ。

どんなに『おかしい』と言われても、どんなに『ふしだらだ』と言われても、意見を変えるつもりはなかった。

● 中央　至近距離

「少しだけからかうように。

これは照れ隠しで、内心、変わった事を言うなと思つていて。

でも、主人公の人柄を感じて、悪くないなと思つていてる】

恋人セツクスなら、してもいいんだ】

〈主人公〉

「うん」

主人公、頷きながら、つくづく意味がわからないと思う。

自分は今、弥映が『主人公とお付き合いします』と口約束さえすれば、今すぐセツクスしてもよい。そういう意味合いの事を言つていてる。

だが、仮に約束を交わしたところで、それは果たして、どの程度の効力を發揮するのか。また、それはどの程度継続されるものなのか。

そして『付き合う』とは、セツクス以外、具体的に何をして、どういう関係を結ぶものなのか。

それらについて何もわかつていないし、決めていないのに『付き合おう』と提案してい

るのだ。

●中央 至近距離

「声が少し揺れる。普通っぽく振る舞つているが、内心、とても驚いている
そつ、か。

【長めの間をあけてから。本音が漏れる】

あんたつて変わつてるね。

【少し間をあけてから。驚いているが、嬉しいと思つていて。声が少し笑つていて
こんな変な女に『付き合おう』とか言うなんて。

【長めの間をあけてから。

『てつくり、普通に嫌がられて終わりだと思つたんだけど』と言おうとして結局やめる
でも。

【内心とても勇気を出す】

嬉しいよ。

【ぼそっと】

てか……すごい、嬉しいかも】

だが、なぜか弥映はこの提案を、否定的には受け取らなかつた。

それほどまでに、今セックスがしたいのだろうか。

それとも……。

いずれにせよ、今の主人公に、弥映の真意を知るすべはない。

弥映の手が伸びる。

主人公は、触れられるのかと思う。

だけどそうはならず、その手は代わりに、部屋のスイッチ紐へ向かう。

SE2 弥映が部屋の電気を消す音

【最初から最後まで流す】

部屋の電気が消える。

正確には、オレンジの光だけになつた。

薄暗くなつた部屋の中で、弥映が近づいてくる。

弥映、主人公の手を握り返して、顔の正面でささやく。

●中央 ささやき ※マークのセリフまでささやく

「甘く、ゆっくりと、ひそひそとささやく」
いいよ。付き合お。恋人のえっちしよ?」※

弥映、そう言つて、主人公の顔の左側に顔を近づける。

SE3 弥映の身体が動く音

【最初から最後まで流す】

【中央から左側へ移動する】

●中央 左寄り 至近距離

【額の左側にキスする】

ちゅ。

【嬉しそうに笑う】

ふふ。

【少し間をあけてから。左頬にキスする】

ちゅ。

【唇にゆつくり一回だけキスする。】

唇が濡れている事がわかる、水っぽい、ちゅぱつとしたキス】

ちゅつ……
♥

【少し間をあけてから。

心底愛おしそうに。『唇熱い』は主人公の唇をさして言つている
はは。唇熱い。

【自分の唇を舌で舐めて】

れろつ……
♥

【少し間をあけてから。『そういえばそうだった』という感じで
あたしがアイス食べてたからか。

【ここで一度、キスが終わつたように油断させる。

それからもう一度、一回だけゆつくりキスする。やはり濡れた、水気の強いキス】

ちゅつ……
♥

弥映、主人公の左耳に顔を寄せて、たずねる。

●●左 ささやき ※マークのセリフまでささやく

【優しくささやいてたずねる】

初めて?」※

（主人公）

「……はい」

主人公、こくりと頷く。

自分の年齢では特におかしな事ではないと思うが、やはり恥ずかしい。

弥映もまた、特に何とも思ってはいないようだ。
むしろ嬉しそうにしている。

弥映、一度正面に戻り、主人公を見つめて笑う。

●中央　至近距離

「へラへラと、しつと。聞き手に『嘘に決まってる！』と思わせる感じで。

実際は、主人公の緊張を和らげたい。

ここで、主人公が不安を感じそうな時には、弥映はいつも『あたしも』と同意している
事がわかる】

あたしもー】

だけど弥映は、こともなげに同意する。

だから主人公は、思わず呆れてしまつた。

『どうせ嘘を言つてはいる。真に受けてはいけない』と。

でも、本当のところはどうだつたのだろう。

また主人公が、勝手な弥映像を作り上げて、誤解しているだけではないのだろうか。

〈主人公〉

「ほんとにー……？」

● 中央 至近距離

〔優しく〕

ほんとに

弥映、再び主人公の左耳に顔を寄せてささやく。

● ● 左 ささやき ※マークのセリフまでささやく

〔静かにささやく。これは本心である。〕

だが、肝心の『こういうの』がを指すのかは、ここでは不明である
こういうの初めて。嬉しい」※

弥映、再び正面に戻り、今度はいとおしむような表情で主人公を見る。
そのまま、唇がまた近づいてきた。

● 中央　至近距離

【唇にゅつくり、三回キスする。

一回キスすることに少し間を置く。

唇が濡れている事がわかる、水っぽい、ちゅぱっとしたキス】

ちゅつ……
ちゅつ。

ちゅ……
♥】

弥映、また左側へ移る。

● 中央　左寄り

【額の左側に軽く一回だけキスする。水気多めのキス】

ちゅ。

【左頬に、軽く一回だけキスする。水気多めのキス】

ちゅ。

【左側の頬のラインを舐める】

れろつ……♥

（主人公）

「……んつ……♥」

その時、弥映と目が合った。
主人公は恥ずかしくなり、

そうか。

こういう場面で『電気を消してほしい』と頼む人がいるのは、こういう気持ちになるから……。

と理解する。

だから、本当は部屋をもう一段階暗くして、真っ暗にしてほしい。
でも、今それを乞うのは『負け』よりも『逃げ』にあたる気がした。

この発想 자체、たいがい負けず嫌いの思考だと思つたが、それでもかまわない。
それに……部屋がもつと暗くなつたら、弥映の顔も見えなくなつてしまふと思つた。

●左

「左耳のそばで笑う」

ふふ。

【嬉しい。自分のキスがうまくできているようで
ちゅーしただけでびっくりして。可愛い】

そんな主人公を見て、弥映が笑う。

弥映、主人公の緊張を解こうと、優しくささやく。

●左

ささやき ※マークのセリフまでささやく

【※マークまで優しくゆっくりと、気遣うようにささやく】

大丈夫だよ。怖くない。

だつてあたし達、付き合つてんだから。

嬉しい事しかないよ。

【『べたーつ』は擬音の『べたつ』。『ただ』とつなげて言う】

ただべたーつてくつついて、あたしに寄りかかんな？
全部してあげるから。

【優しくダメ押しでささやく】

ね

※

●左 耳舐め

★「※10秒※ 左耳を舐める。

舌で耳の穴の入り口そのすぐ置くくらいの浅い所を、ぴちやぴちや往復する。

『えれえれ』は、舌を小刻みに往復させて、耳の穴の入り口を丁寧に舐めるイメージ】

★ れろつ……♥ ぴちやつ ♥ ぴちやつ……れろつ ♥ えれえれ……れろつ ♥

●左 ※囁かないが、セリフ終わりまで小さめの声で※

【主人公の反応が可愛くて嬉しい】

あは。すつごいびくびくしてます。

【声音を変えてドキッとさせる】

ほんとに初めてなんだね。可愛い】

●左 さきやき ※マークのセリフまでさきやく

「指を、右耳の穴の入り口に軽く入れる。

それから弱めに、くるくる回転させて外側をいじめる

これ好き？ ぺろぺろされながら、反対側の耳、こしょこしょされんの。

【くすくす笑う。主人公の反応が可愛くて、嬉しい】

ふふふふ。

【すこく優しく】

いっぴいしてあげんね】※

●左 耳舐め

★「※30秒※ 左耳を舐める。初めてしつかり舐める。

なのであまり激しくせず、時折吐息を混ぜながら舐める。

主人公の反応を伺うように入り口側をほじるイメージ】★★★★★

★ んくく……♥ れろつ♥ ぴちゃ、ぴちゃ。ちゅぱつ……♥ ん……ふう、ふう

……。

んくつ……♥ んんつ……れろ……♥ ぴちゃ、ぴちゃ……えれえれ……♥ ちゅぱつ

♥

（主人公）

「……んんうつ……♥」

（左）

【興奮して、荒く、ゆつくり三回呼吸する。主人公の反応がすごいいいので嬉しい】
はー、はー。はあ……♥

【すごく嬉しい】

ふふふふ

弥映、すでにとろとろになつていて、主人公の顔を、一度ちらりと見る。
それから、また左耳にささやく。

（左）ささやき ※マークのセリフまでささやく

【※マークまですごく嬉しい。からかっているというよりも、嬉しくて声が笑う】
耳めっちゃ弱いね。耳かきも好き？

【少し間をあけてから。嬉しそうに同意する。主人公が頷いたので】
あたしも好きい。

【再び、右耳の穴の入り口に軽く指を入れて、弱めに、
くるくる回転させて外側をいじめながら話す】

ねえ。耳の中になんか突っ込まれて気持ちいいのって、女の子の穴に突っ込まれて気持ちいいのと同じらしいよ？

【今までより一段階強く、右耳の穴の入り口に軽く指を入れて、
くるくる回転させて外側をいじめながら話す】

だからさ、これってそういう事だよね。

【ゆっくり、言い聞かせるように】

あんた、あたしに指もベロも入れられて、気持ちよくなつちやつたんだね。

【優しくダメ押し】

いっぴよくなつていいよ】※

●左 耳舐め

☆「【※30秒※】左耳を舐める。前回を踏まえて、今度は次第に耳奥まで入っていく。
時々主人公の顔を薄目で見て反応を確認しながら、丁寧に攻めるイメージ。

『えれえれ』は細かく静かに往復する感じ】☆☆☆☆☆

★ ん……♥ れろつ……♥ えれえれ……れろつ♥ ちゅぱつ♥ ちゅぱつ、ちゅぱつ。
ちゅぱちゅぱちゅぱ……♥ ちゅぱつ♥ ぴちやぴちや♥ れろろつ。ちゅぱつ♥

●左 ※囁かないが、セリフ終わりまで小さめの声で※
「実感を込めて。主人公の反応が可愛くて嬉しい」
ほんと可愛い。

【左耳のふちに三回キスする】

ちゅ。ちゅ。ちゅつ。

【ふいに、左耳を吹く】

ふつ
♥

●左 ささやき ※マークのセリフまでささやく

「すごく嬉しい。からかっているというよりも、嬉しくて声が笑う」
あは。またびくーつでした。

【※マークまで、今度は、ゆっくり言い聞かせるようにからかう】

挿入されて出し入れされて。

感じちやうとこ、ぐぱぐぱ舌でほじられて。

『気持ちー』は『気持ちいい』の意味。

以後、これに関してはすべて同じ意味なので省略】
気持ちーね？

もつと気持ちいいの、覚えようね?」※

●左 耳舐め

★「【※15秒※】 左耳を舐める。耳穴の外側を、ぞりぞり丁寧にこするイメージ。

丁寧にやる分少し苦しく、時折吐息が漏れる】★☆

★ んう……♥ んつ。れろれろ……♥ れろれろ……♥ れろれろ♥ れーろ、れーろ、
ぴちやつ……♥ ちゅつ♥』

△主人公

「ああっ……♥』

主人公、のけぞるほど気持ちよくて、無意識のうちに、弥映にしがみつく。

●左

「余裕が出てくる。今の舐め方が、今までで一番反応が良かつたので嬉しい。

『つかまんな?』は『つかまつていいよ』の意味】

ふふふふ。いいよ? きゅーつてつかまんな?』

●左 ささやき ※マークのセリフまでささやく
「すごく嬉しい」
「可愛い」※

SE4 弥映が主人公の背中を優しくとんとんする音
【最初から最後まで流す】
【セリフと『とんとん』するテンポが、可能な範囲で近づくように流す】

●左 ささやき ※マークのセリフまでささやく
「すごく嬉しい」
「よしよし。よしよし♥」※

SE5 主人公の身体が動く音
【最初から最後まで流す】

（主人公）
「……あの。あのっ、もう……」

● 中央 至近距離

「すごく優しい声で、主人公の言わんとする事がよくわからないので、続きを促す」
んー？

【※マークまで優しく。『耳舐めが気持ちよくて、驚いているのかな?』と推測する】
びっくりした？

ごめんね。あんた可愛いから、ちょっとやりすぎちゃった。※

【甘つたるく許しを乞う】

許してくれる?』

主人公、小さく頷くと、今度は自分から顔を寄せてキスをする。
さつきはされるがままだつたから、これが実質、初めてのキスだ。
自らの意志で、弥映としようと思つてしたキスだ。

自分から『付き合おう』と言い出したくせに、今初めて、弥映を恋人と意識した気がした。

● 中央 至近距離

「ふいにキスされて、少し驚く」

ん……♥

【そのまま、『。』を区切りに三回キスされる。つたない、間隔の短いキス】

ん。んつ。んうつ……

【すごく嬉しい。またこれが『許す』のサインであると理解する】
ありがと。ふふふ。

【優しくからかう】

てか。て事は、まだされたいんだ?】

〈主人公〉

「…………♥」

主人公、黙つてうなづく。

●中央 至近距離

【照れ隠しに、ゆっくりとからかう。本当はすごく嬉しい】
エロいなあ。あたしもエロいけど。ふふ♥】

●左 ささやき ※マークのセリフまでささやく

【すごく嬉しい。優しくささやく】

嬉しいよ。

【少し間をあけてから。

『もつとしてほしいっていうのは、反対の耳も舐めてほしいって事?』と確認している】
反対もして欲しいの?

【ひとりわ優しい声音に変わつて、ドキッとさせる】
いいよ】※

S E 6 弥映の身体が動く音

【最初から最後まで流す】

【左から右へ移動する】

弥映、主人公のリクエストに従つて、右耳側に移動する。

●●右 さきやき ※マークのセリフまでさきやく

【優しく。もう元の声に戻る】

こつちの穴も、初めて奪われちゃおうね】※

●右 耳舐め

☆「【※15秒※ 右耳を舐める。

先ほどと同じように、耳穴の外側を、ぞりぞり丁寧にこするイメージ。

先ほど同様丁寧にやる分少し苦しく、時折吐息が漏れる】☆☆

★ ふう……んつ……んつ。れろれろれろ……♥ れろ♥ れーろ、れろつ♥ ちゅぱつ……ちゅぱつ♥ ぱつ……ちゅぱつ……ちゅぱつ♥】

●右 ささやき ※マークのセリフまでささやく

「優しくゆっくり確認する。さつきと同じく反応がいいので。

『?』で区切られるが、『耳の外側の所を、舌でごしごしされるのが好き?』

と質問したい】

ここ? 穴の外側んとこ? 舌でごしごしされるのが好き?】※

（主人公）

「なんでわかるの……?】

●右 ささやき ※マークのセリフまでささやく

「【すごく優しく】

わかるよ。『もつとして』って、身体くつづけてきてるじやん

●右耳舐め

☆「〔※30秒※ 右耳を舐める。」

基本は先ほどと同じように、耳穴の外側を、ぞりぞり丁寧にこするイメージ。
ただし先ほどよりも、自信を持つてしつかり攻める】☆☆☆☆☆
ふふ……♥ んつ。んくつ……ちゅぱつ♥ れろれろ、れろれろ、じゅるつ♥ れろれ
ろ……ずずつ……じゅるる……ちゅるつ♥ れろ♥ れろれろ♥ れろれろれろ♥

●右ささやき ※マークのセリフまでささやく

「【すごく優しく。『ね』は『ねえ』の略。】

ね。

【少し間をあけてから。

ここから※マークまで、ゆっくり、優しく言い聞かせるように】

今のおんたはね。気持ちよくなるのが仕事なんだから。

好きなとこ、弱いとこ。全部教えて？

あたしあんたの彼女なんだからさ。

彼女の事、嬉しくしたいって思うのは、当たり前でしょ？
ね？」※

SE7 主人が身体を動かす音

【最初から最後まで流す】

〈主人公〉

「……つ」

主人公、ここで一度身体を離すと、無言で弥映を見上げる。

弥映はそれを『何か言いたげである』と理解し、顔を近づけて発言を促す。

● 中央 至近距離

「額に一回だけキスする。主人公の緊張を解きたい」

ちゅ
♥

〈主人公〉

「……あの」

● 中央 至近距離

「すごく優しく。」

聞いている側が『これから、言いづらい事も言い出せるかもしない』
と思つてしまふ感じで』
うん?』

弥映、促すように左耳にささやく。

●左 ささやき ※マークのセリフまでささやく
「すごく優しく。

聞いている側が『これから、言いづらい事も言い出せるかもしない』
と思つてしまふ感じで』
教えて。

【少し間をあけてから。すごく優しく】
全部。話していいんだからね】※

ここでフェードアウトして終了。